

食育推進の数値目標一覧

	指 標	集計方法・対象等	現状値 (平成18年度)	目標値 (平成23年度)	(参 考)			
					県	国		
					現状値 → 目標値 (平成22年度)	現状値 → 目標値 (平成22年度)		
市民一人ひとりの健全な食生活の実践	☆ 食育に関心がある市民の割合	「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」	72.1%	▷	90%	59.8% → 90%	70% → 90%	
	☆ 食事バランスガイド等を参考にしている市民の割合	「ほとんどしない」を除く ※現状値：食事バランスガイドのみ	※16.1%	▷	60%	(参考) 16.9% → 60%	60%	
	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合	1日2回以上	59.5% (H17)	▷	70%	—	—	
	☆ 朝食を欠食する市民の割合 [成人]	20歳代男性	「ほとんど食べない」「週に1～2回食べる」	31.2% (H17)	▷	15%	18% → 15%	30% → 15%
		30歳代男性		28.6% (H17)	▷	15%	19.5% → 15%	23% → 15%
	☆ 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）を認知している市民の割合	「言葉も意味も知っている」	65.0%	▷	80%	50% → 80%	80%	
	肥満の市民の割合	20～60歳代男性 (BMI25以上)	22.3% (H17)	▷	15%	25.3% → 15%	—	
	低体重（やせ）の市民の割合	20歳代女性 (BMI18.5未満)	23.4% (H17)	▷	15%	26.2% → 20%	—	
	食の安全に関する知識を持っていると思う市民の割合	「持っている」「ある程度持っている」	69.7%	▷	80%	—	—	
	☆ 食育の推進に関わるボランティアの数	食生活改善推進委員数	610人	▷	730人	(食育ボランティア) 165人 → 20%増	20%増	
食生活の面から市民の健康づくりを支援する店の数	健康づくり支援店指定店舗数	180店	▷	500店	874店 → 1,700店	—		
健やかな子どもの成長	食事時に家族の会話ができている市民の割合	「大切だと思っているしできている」「大切だと思っているしだいたいできている」	55.7%	▷	70%	—	—	
	☆ 朝食を欠食する子どもの割合	小・中学生 <small>学校へ行く前に朝食をとるか「とらないことが多い」「全く、ほとんどとらない」</small>	4.2%	▷	0%	(小5：ほとんど食べない) 2.6% → 0%	(小5：ほとんど食べない) 4.0% → 0%	
	☆ 学校給食における地場産物を使用する割合(食材数ベース)	市内産	10.5%	▷	13%	(県内産) 27.1% → 30%	(県内産) 21% → 30%	
	学校教育田等で農業体験を実施している学校の数	小学校 ※現状値：教育田のみ	※35校	▷	95校	—	—	
地域の活性化、環境と調和のとれた食料の生産・消費	市民ランド・収穫農園の参加者の数	家族や友人同士など参加グループ数	425組	▷	500組	—	—	
	学校給食廃食用油の燃料化	※新潟菜の花プラン推進の指標 (廃油回収量≒BDF生産量)	15,000ℓ	▷	70,000ℓ	—	—	
	環境保全型農業に積極的に取り組む「エコファーマー」の認定者数		1,224人	▷	1,720人	500人 2,500人 → (H20)	—	
	☆ 食育の推進に関わるボランティアの数(再掲)	食生活改善推進委員数	610人	▷	730人	(食育ボランティア) 165人 → 20%増	20%増	
	食生活の面から市民の健康づくりを支援する店の数(再掲)	健康づくり支援店指定店舗数	180店	▷	500店	874店 → 1,700店	—	
	☆ 学校給食における地場産物を使用する割合(食材数ベース)(再掲)	市内産	10.5%	▷	13%	(県内産) 27.1% → 30%	(県内産) 21% → 30%	
	学校教育田等で農業体験を実施している学校の数(再掲)	小学校 ※現状値：教育田のみ	※35校	▷	95校	—	—	

☆：食育推進基本計画（国）、新潟県食育推進計画と共通の指標